

随所に「自立への強い意志」

全三巻 八木秋子さんの著作集完結



八木秋子さん

戦前「女

人芸術」や

「婦人戦線」

などの女

性雑誌で、

高群逸枝、

平塚らいて

うらと共に

論陣をはった、八木秋子さんの著作集全三巻が完結した。

現在、八十五歳の病身を東京都

和三十年代に寮母をしながら底辺を見詰めた目とふるさとの木曾への思いがないまぜになって書かれた長編。幼児期に親、きょうだいから受けた数々の影響が自伝風に描かれている。

八木さんは戦前のアナキストの運動である「農村青年社」の関係で投獄された。その後、満州に渡って、働きながらさまざまな交友関係を持つ。ソ連の参戦で満州が大混乱になる日々は、第三巻「異境への往還から」にくわしい。

衰と退歩に抵抗」して生きる姿勢は、今も続いている。

五十二年に刊行された第一巻「近代の八負」を背負う女」は、昭和初期に「女人芸術」「婦人戦線」「種蒔(ま)く人」などに寄稿した評論や小説が主な内容。そのなかの「一九二二年の婦人労働祭」や「ウクライナ・コミュニン」などを戦前読んだという作家の堀谷雄高氏は、八木さんのもの「本質的な先駆性」が現れている、と言っていた。

第二巻の「夢の落葉を」は、昭

への対し方は、自をみはらされるだろう。

(第一巻)二〇二頁、一、三〇〇円、第二巻)三三四頁、一、八〇〇円、第三巻)二八七頁、二、〇〇〇円。JCA出版(東京都千代田区神田神保町一ノ四二、日東ビル)